



薬剤師の立場から 薬剤師として医療チームへの参加を経験して…

今回私は、未曾有の大災害となった東日本大震災において、被災地医療チームの一員として、被災地の1つとなった宮城県仙台市での救援活動に参加しました。

我々が、派遣された仙台市若林地区は、津波により大きな被害を受けた地域でしたが、被災現場は、倒壊した家屋、押しつぶされた車の残骸が一面広がり、まさに爆弾が何発も投下されたような光景でした。テレビで見ていた以上に悲惨な状況に大きな衝撃を受けるとともに、多くのものを失い、避難生活というストレスの中で生活されている被災者の方々がみな協力し合い、冷静に対応されている姿に強い感銘を受けました。

医療チームは、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、事務員の5名で構成され、不十分な環境下でも、それぞれが存分な力を発揮できるよう一丸となって自分に課せられた仕事を行いました。薬剤師である私は、避難所に設置された仮診療所で、医師が処方する薬の調合や交付を主に行いました。仮診療所を訪れる方の多くは、疲労による体調不良、感冒症状、腰痛、復興作業中の怪我、また、避難所の塵やほこりによるアレルギー症状など、病状は非常に多岐にわたり、用意した数少ない種類の薬の中から診察を受けた方に最も合うものを選び、お渡しすることの大変さを強く感じました。また、被災者の方の中には、高血圧や糖尿病などの慢性疾患の薬を切らしてしまった方、薬の袋をなくして飲み方が判

薬剤部 主任薬剤師 中田 吉則

らない方もみえ、お話を伺いながら飲まれていた薬の内容や飲み方を調べ、薬を正しく服用してもらうためのお手伝いも行いました。

過酷な環境下にある被災地での活動は、肉体的、精神的にも非常に大変なものです。しかし、薬の専門家としてわずかながらも救援のお役に立てたことに大きなやりがいを感じています。

今回の震災では高血圧や糖尿病のような慢性疾患の薬を持たずに非難され、薬が飲めないために症状が悪化してしまった方も多くみえます。東海大地震がいつ発生しても不思議ではない今、避難用品の中に、自分が飲んでいる薬の内容がわかるもの(説明書)や数日分の薬(但し、定期的な入れ替えが必要です)を備えておくことも重要だと感じました。



押しつぶされた体育館

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。